



2023年7月10日
株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース第79号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. 西アフリカ産カカオが病害により 13年ぶりの高値に急騰(7/4)

西アフリカ全域で大雨が降り、カカオ果実のカビや腐敗の原因となる病害の蔓延が加速し、世界最大の生産国のいくつかで生産高が脅かされたため、カカオは13年ぶりの高値に急騰した。

コートジボワール、ガーナ、ナイジェリアの生産者は、カカオのさやが黒く変色し腐敗するブラックポッド病の兆候を報告している。この病気は、カカオ豆の品質や生産量に影響を与える可能性がある。ガーナ・ココア・マーケティング社のフアド・モハメッド・アブバカル社長によると、この病気は供給にとって壊滅的な打撃を与える可能性があるという。

コートジボワール中西部の生産者、マキシム・ゴデ氏は、今年のミッドクロープの生産量も品質も、昨年に比べ期待外れになる可能性が高いと述べた。収穫量が少ないため、メインクロープ収穫後の不足を補うには十分でないとの懸念に拍車をかけている。

カカオは年2回収穫され、メインクロープは主に10月から3月、ミッドクロープは5月から8月である。



ロンドンのココア先物は今年に入り20%以上も高騰した。最も活発な先物限月である12月限月は月曜日に1トン2,544ポンドに達し、2010年半ば以来の高値となった。

ナイジェリアでは、生産者のソラ・オグンソラ氏によると、沿岸部のカカオ農園が深刻な影響を受けている。また、この雨で一部の道路が通行不能となり、カカオ生産者は農園での薬剤散布や港へのカカオの搬入が困難となっている。コートジボワールの生産者は、7月2日までのシーズンで224万トンに送ったが、これは1年前の推定約229万トンよりわずかに少ない数量だ。

エルニーニョ現象の再来も価格を下支えしている。なぜなら、エルニーニョ現象は西アフリカに高温・乾燥状態をもたらす傾向があり、10%もの生産量減少のリスクがあると予測されているからだ。

2. ガーナの銀行、カカオ債のリストラでより良い取引を推進(7/8)

- ・ガーナが IMF の債務目標を達成するためには取引成立が重要
- ・ユーロ債保有者との厳しい交渉にも直面

ガーナの銀行は、国際通貨基金（IMF）がガーナに設定した目標達成のために重要な交渉の一環として、保有するカカオ債のリストラで政府により良い条件を求めている。

この問題に詳しい3人の関係者によると、政府は2025年から2029年にかけて満期を迎える5つの新規債券について12%の金利支払いを提示している。これらは平均30%のカカオ手形の金利の変更を提案するもので、額面の約40%を消し去ることになるため、銀行はあまりに急激な引き下げだと考えているという。カカオ際は国営のガーナ・ココアボードが発行し、金融機関等機関投資家が買い受け、用途はガーナのカカオ生産関係の予算に使われる。貸し手である銀行は、カカオ際についても、2月に終了した国内債務交換と同様の条件を望んでおり、その際に貸し手が被った金利の引き下げ幅は最大で10.7%ポイントだった。

今年初めにユーロ債の支払いを不履行としたガーナ政府は、5月に承認された30億ドルのIMFプログラムのもと、国の借金を持続可能なものにするために債務の大部分を再構築している。IMFの支援は、2月に行われた債務交換の結果と、20カ国・地域（G20）の共通枠組みの下での二国間債権者による融資保証に基づいている。カカオ債は、実際は国営のガーナ・ココア・ボードが負っているため公的債務の一部ではないが、これを再編成することは、IMFの債務削減とバランスシート強化の要求に沿ったものである。

ある関係者によると、今回の改革は最大79億セディ（6億9,500万ドル）の負債に影響を与える可能性があるという。利息は半年ごとに支払われるが、2025年には元本の5%、2026年には20%、残りの3年間は25%ずつ支払われる。

大蔵省のスポークスマンはテキストメッセージでコメントを求めたが、返答はなかった。ガーナ銀行協会のジョン・アウア最高経営責任者も、コメントを求めるテキストメッセージや電話には応じなかった。

2月の取引では、投資家は878億セディの債務を、旧債券の平均19%に対し、わずか8.35%の新証券と交換した。

2月の一連のプログラムの承認後、ガーナはIMFから即座に6億ドルの支払いを受けたが、さらなる追加支払いが実行されるかどうかはガーナが投資家との債務再編合意に達するなど、業績目標を達成するかどうかにかかっている。

カカオ債の金利緩和交渉に加え、ガーナは国債への290億セディの投資を見直すため、地元の年金基金と交渉を続けている。また、9億7,570万ドルの国内ドル建て債券残高についても、金融機関との合意に近づいている。国内ドル債のクーポンの下げ幅は比較的狭いため、銀行はこの提案を受け入れる可能性が高いと、2人の関係者は語った。政府は2027年6月と2028年6月に満期を迎える2つの新債券を提案しており、それぞれ2.75%のクーポンと3.25%のクーポンを支払う。

ガーナは、ユーロ債投資家との交渉妥結のために9月に自らに課した期限を背景に、国内債務の再編成を急いでいる。IMF ミッションチーフのステファン・ルーデは先月、ガーナがIMFプログラムから期待される利益を確保するためには、債権者との債務再編合意がタイムリーになされることが不可欠であると述べた。

◆関連の過去のニュース◆

ガーナ・ココア・ボード、2022-23年のココアローンについて高いマージンを支払う

ガーナのカカオ産業の規制当局は、月曜日に調印された11億3000万ドルのシンジケートローンについて、175ベース・ポイントプラス・SOFR（=セキュアード・オーバーナイト・ファイナンス・レート）を支払っていると、ココアボードのスポークスマン、フィフティ・ボアフォ氏が質問に対するテキストメッセージの回答で述べた。

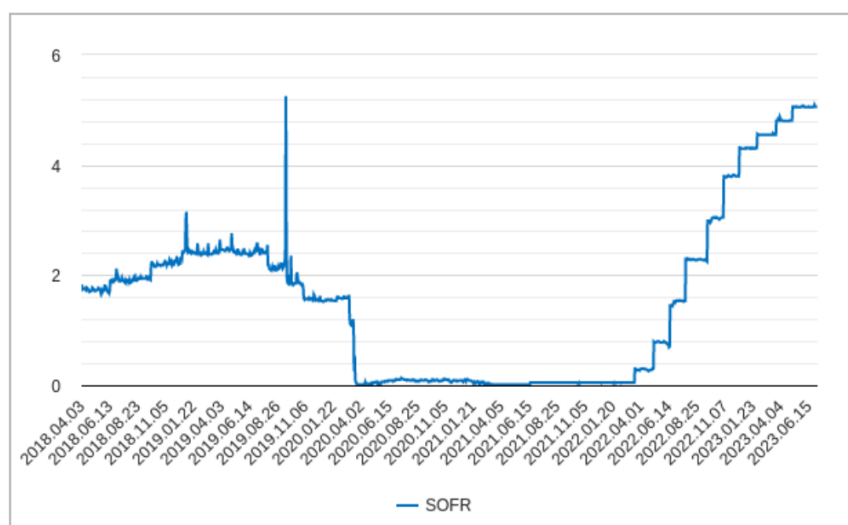
尚、昨年、2021-22クローブに調達された15億ドルの融資に対し、110bps+Liborを支払った為、プレミアア

ムについては上昇しており、またベース金利についても当然かなり上昇した事になる。

ガーナココアボードは、当初10億ドルを調達するためのロードショーの後、オーバーサブスクリプションの結果、国際金融機関団とより大きな金額を契約することを選択した。

参考：SOFRの推移

チャート (SOFR)



3. ナイジェリア・ココア協会、販売委員会の復活に反対(7/7)

ナイジェリアの2つの主要なココア協会は、商品の売買までを実行するココア委員会の再設置に反対しており、生産者の収入を減少させる可能性があるとして、金曜日に発表した。

ナイジェリア・ココア協会の Muftau Abolarinwa 会長は、ガーナのようにココア委員会がカカオ価格を決定し、生産者からの購入と輸出を行う唯一の機関とするのであれば、同委員会の復活を支持しないと述べた。新しい理事会は、規制と業界のガイドラインを与えるだけで、カカオのマーケティングには関与すべきではない、と彼は言った。

新政権は、現在のカカオ業界の問題点によりよく対処していくために、またより自由な市場を促進するために、1986年に廃止されたカカオを含む多くの商品販売委員会の復活を検討しているという報告がある。

業界関係者によると、このような販売委員会が再び設立された場合、生産者の収入が減少する恐れがあるという。

ナイジェリア・ココア生産者協会も「カカオを購入するのではなく、生産者が必要な支援を受けられるようにし、カカオ産業を成長させるような委員会を設立する」ことに取り組むと、同協会のアデオラ・アデゴケ会長は方向性を示しており、カカオ産業のさらなる発展と、生産者が必要とするインプットを得ることに焦点を当てた委員会の設立を推進すると述べた。

4. ナイジェリアカカオ価格、クロスリバー、オグン、オスン各州で上昇、オンド州は下落(7/6)

カカオ価格は今週、ナイジェリアのクロスリバー、オグン、オスン各州で上昇したが、オンド州では下落したと、業界関係者やトレーダーが水曜日に述べた。

同国南部で2番目に大きなカカオ生産地であるクロスリバーでは、輸出に適したカカオと認定されたグレード・カカオが1トン198万ナイジェリア・ナイラ=NGN(2,570ドル)で取引されており、先週は196万NGNであった。

ナイジェリア・ココア協会(Cocoa Association of Nigeria)の職員であるNojeem Olomide氏によると、南西地域のOgunでは、1週間前の1トン185万ナイジェリア・ナイラから190万から195万NGNであった。

ナイジェリア第3位のカカオ産地であるオスン州では、1トン当たり190万NGNとなり、1週間前の185万NGNから上昇した（Ile-Ife Cooperative Produce Marketing Unionのマネージャー、Isaac Arayela氏）。同国最大の生産地である南西部オンドでは価格が下落し、先週の1トン192万～195万NGNから185万～190万NGNで取引されている、とトレーダーは述べた。一方、同国南東部のアビアでは、価格は180万NGNで安定している。

5. タンザニアのカカオ輸出額、5月までの1年間で1%減少(7/7)

タンザニアのカカオ輸出額は、5月までの12カ月間で前年同期比1%減少したと、同国中央銀行が水曜日に発表した。東アフリカの国々が輸出したカカオ豆は2750万ドルで、前年同期の2780万ドルから減少した。販売量と平均価格は公表されていない。

農務省によると、タンザニア政府は国際的な需要が高まる中、カカオの生産量を増やすことを目指している。タンザニアのカカオの販売年度は7月から6月30日までである。

6. カメルーンの農園でカカオ価格が上昇、港では横ばい(7/7)

カメルーンの農産物直売所におけるカカオ価格は6月12日以来初めて上昇したと、生産者やトレーダーが木曜日に述べた。

カカオ栽培の第二の主要地域である南西部のカカオ豆1キログラムは1,300CFAフラン（2.15ドル）で、6月12日から火曜日までの1,280XAFから1.56%上昇した。カカオの主産地である中部地方では、仲買人がカカオ1kgに1,390XAFをつけ、6月第2週から火曜日までの1,375XAFから上昇した。一方、ドゥアラ港でのカカオの価格は、木曜日に発表されたデータによると、火曜日に過去最高を記録した後、徐々に下がっている。輸出業者は1キログラムのカカオに2,109XAFを提示し、火曜日の2,122XAFから下落した。

参考添付資料：

ICEの先物取引数量が天候不順に応じて拡大、好調というレポートがありましたので、日本語訳にて添付致します。簡易和訳ですので詳細内容についてはICEの公式発表されている原文をご確認ください。